順位	氏名（議席）	発　　言　　の　　要　　旨
１２	下田　良秀（１７）	１．富士市における職員の生成ＡＩ活用の現状と今後について 　生成ＡＩとは、人工知能（ＡＩ）の一種で、学習したデータを基に、人間がつくり出すような新しいコンテンツ（文章、画像、音声、動画など）を自ら創造・生成できる技術を指す。従来のＡＩが識別や分析に特化していたのに対し、生成ＡＩは創造に重点を置いており、大量のデータを学習することでそのデータの特徴やパターンを理解し、それを基に全く新しいオリジナルのコンテンツを生成することができる。テキストから、文章生成、画像生成、音声生成、動画生成を行うなど様々な場面で活用され、世界中でさらなる応用が検討されている。 　実際、生成ＡＩに生成ＡＩの主な活用例を聞いてみると、①レポート作成、議事録作成、メール作成、コード生成、データ分析などの業務効率化、②ブログ記事作成、広告制作、デザイン素材生成、ＢＧＭの生成などのコンテンツ制作、③新しいビジネスアイデアのブレインストーミング、デザインコンセプトの提案などのアイデア創出、④教育資料の作成や個別指導コンテンツの生成が挙げられた。また、様々な分野で創造性や生産性を大きく向上させる可能性を秘めた注目の技術であるとの返答があった。 　本市においても令和２年に富士市デジタル変革宣言がなされ、第四次富士市情報化計画の下、事業のロードマップが作成されており、ＡＩやＲＰＡなどの情報技術を用いた様々な業務改善が行われている。令和５年６月には生成ＡＩが本格的に活用が始まり、ガイドラインも策定され研修会等も実施されている。その後、庁内では生成ＡＩを活用した様々な業務改善がなされている。 　これまで生成ＡＩの利点について述べてきたが、最近では様々な弊害も叫ばれている。例えば職員のデジタルデバイド（情報技術を利用できる人とできない人の間で生じる格差）の問題、画像生成等における著作権の問題、生成ＡＩのデータ学習におけるデータ抜取りなど多くの問題点も指摘されている。 　データ学習や技術の進歩により進化していく生成ＡＩの特徴から、問題点やリスクをうまくコントロールしながら活用していく必要があると考え、以下質問する。 (1) 富士市における職員の生成ＡＩ活用の現状とその効果について伺う。 (2) 生成ＡＩ活用の今後の展望や課題についてはどう考えているか。